第10課　二つの契約

【暗唱聖句】

「他方、天のエルサレムは、いわば自由な身の女であって、これはわたしたちの母です。」ガラテヤ4:26

【今週のテーマ】

今週は、アブラハムの二人の子供が霊的に象徴していることは、律法によって救いを得ようという人達と、神様の恵みの約束を信じて救われる人たちを象徴していたのだということを学びます。

【日曜日・契約の基本】

旧約聖書の中に契約を表すヘブル語の「ブリット」という言葉が約300回登場します。これは拘束力のある契約、取り決め、協定を意味していました。また契約を結ぶ過程において、しばしば動物がほふられました。これはもし契約を破った場合起こるであろうことを象徴していました。

神様が人間と結ばれた最初の契約は禁断の実を食べてはならないというただ一つだけのことでした。この契約の基本的性質は神様への服従です。人間は神様と調和する性質を備えたものとして創造されていたので、本来不可能な要求ではありませんでした。神様へ服従して生きるということは人間に自然な、生まれながらの傾向でした。逆に、神様との約束を破って禁断の実を食べるということは人間にとって不自然なことでした。アダムとエバは神様との契約を破っただけでなく、その後生まれてくる人間すべてが契約を守ることができない弱い性質とさせてしまいました。しかし、神様は人間と新しい契約を結んでくださったのです。それは救いの約束でした。

【月曜日・アブラハムの契約】

12:1 主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷父の家を離れてわたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民にしあなたを祝福し、あなたの名を高める。祝福の源となるように。あなたを祝福する人をわたしは祝福しあなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべてあなたによって祝福に入る」創世記12:1～3

神様がアブラハムと結ばれた約束は、神様からの一方的に恵みであって、アブラハムの協力が必要だったわけではありません。ただ神様が示す地に旅立つこと、そして神様の約束を信じることがアブラハムに求められました。そうすれば祝福の基となり、大いなる国民の父となるという驚くべき神様の約束が実現することになるのでした。そして、アブラハムは信仰をもって家族から離れ、神様が示される地に旅立ったのでした。

しかし、約束された子供はなかなか与えられませんでした。やがて、アブラハムの心の中で疑念が生じます。アブラハムは信仰の父と呼ばれる人物ですが、はじめからそうだったのではありません。信じては疑い、疑っては信じるようなわたしたちと同じ弱い者だったのです。信仰というのはいつも一定ではなく、不安定になることが多いものです。しかし、神様は時間をかけて訓練されます。そして信仰を成長させてくださいます。アブラハムにイサクが生まれるまで25年間かかりました。信仰の訓練に25年もかかったのです。この間、アブラハムは星を見て神様の約束を信じたこともあれば、疑ってハガルに子供を産ませてしまったり、神様をあざ笑うことさえしたのです。しかし、神様は忍耐してアブラハムの信仰を訓練なさいました。

また、「わたしはあなたをカルデアのウルから導き出した主である。わたしはあなたにこの土地を与え、それを継がせる」（創世記15:7）と主から言われたとき、アブラムは尋ねた。「わが神、主よ。この土地をわたしが継ぐことを、何によって知ることができましょうか。」（創世記15:8）を求めます。神様の一方的なお恵みの約束に対して、その恵みをいただける保証をくださいと言ってるわけですが、これは常識的に考えるととても失礼な行為です。たとえるなら、1億円の寄付しましょうと申し出てくださった方に、ではその契約書を書いてください（約束を必ず果たすように）と要求しているようなものです。しかし、神様は自らを低くされて、アブラハムが安心できるように切り裂かれた動物の間を突然、煙を吐く炉と燃える松明が通り過ぎるという、主ご自身の十字架の贖いを象徴的なしるしを見せられるのでした。

神様の恵みをいつも疑うことなく信じるものでありたいものです。それを疑いたくなるような出来事が起こったとしても、なおも信じるところに信仰があります。

【火曜日・アブラハム、サラ、ハガル】

「アブラハムには二人の息子があり、一人は女奴隷から生まれ、もう一人は自由な身の女から生まれたと聖書に書いてあります。ところで、女奴隷の子は肉によって生まれたのに対し、自由な女から生まれた子は約束によって生まれたのでした」ガラテヤ4:22、23

パウロはアブラハムの二人の息子に対して、女奴隷だったハガルから生まれた子供イシュマエルを肉によって生まれた子供とし、サラから生まれた子供イサクを自由な女から生まれた約束の子供と区別しました。これは霊的な意味が隠されているとパウロは言います。

「これには、別の意味が隠されています。すなわち、この二人の女とは二つの契約を表しています。子を奴隷の身分に産む方は、シナイ山に由来する契約を表していて、これがハガルです。このハガルは、アラビアではシナイ山のことで、今のエルサレムに当たります…他方、天のエルサレムは、いわば自由な身の女であって、これはわたしたちの母です…兄弟たち、あなたがたは、イサクの場合のように、約束の子です。」ガラテヤ4:24～28

つまり、ハガルから生まれたイシュマエルは律法を象徴し、サラから生まれたイサクは神様の約束を象徴しているというわけです。ただ、ここで考えたいのは、結局イシュマエルはアブラハムとサラの不信仰から生まれた子供でした。二人の肉に頼った結果生まれた子供ということです。イシュマエルに罪はありません。悪いのはアブラハムとサラのほうです。その結果、大きな悲しみや重荷、不幸を引き起こしていったのです。肉によって仕上げようとする行為、律法を守ることで救われようとする行為が、大きな悲しみや重荷、不幸を引き起こしていったハガルとイシュマエルの姿と重なっていくのなら、それは正しいことです。

【水曜日・ハガルとシナイ山】

シナイ山において、神様がモーセに現れ、かつてアブラハムと結んだ契約関係をイスラエルの民と築きたいと願われました。しかし、アブラハムは約束を信じるだけで恵みを受け取ることができたのに対して、シナイ山では律法が授けられ、約束ではなく律法を守らなければ恵みを得ることができないように変わってしまったかのように感じるかもしれません。

しかし、これまで学んできたように律法は罪を指摘し、キリストのもとへと私たちを導く養育係の役割があったわけです。その役割のおかげで、私たちは己の罪深さを認め、キリストの元へと誰もが導かれるようになったのです。そして、実際の救いに関しては、律法によって導かれたキリストの恵みによって与えられるということにおいて、アブラハムに与えられた約束と何も変わらないのです。そして、アブラハムが神様に応答して旅立ったように、わたしたちにも神様への応答が求められています。それが律法ということです。

出エジプト19:5の「今、もしわたしの声に聞き従い（なさい）」と訳わされているヘブル語は「聞く」というのが元々の意味です。聞くことから信仰は始まるのです。

【木曜日・今日のイシュマエルとイサク】

律法を守ることで救いを得ようという考えは、肉によって子供を得ようとしたアブラハムとサラの行為を同様の行為です。その結果生まれたのがイシュマエルなので、イシュマエルは象徴的に肉の力によって救いを得ようとする人々の結果を象徴しています。それに対してイサクは約束の子でした。必ず生まれると約束されたように、時が来た時に、約束の子は生まれました。同様に、神様の救いも約束として必ず時が来れば実を結ぶことになります。しかし、霊の子は肉の子から迫害を受けたり、あざ笑われたりするとパウロは言います。

「けれども、あのとき、肉によって生まれた者が、“霊”によって生まれた者を迫害したように、今も同じようなことが行われています」ガラテヤ4:29

これはイシュマエルがイサクをからかったり、笑ったりしていたことを指しています。

「サラはエジプトの女ハガルがアブラハムとの間に産んだ子が、イサクをからかっているのを見て」創世記21:9

からかっていると訳されている言葉は「笑う」という意味です。同様に、肉によって救いを得ようとする人は、霊によって生きている人を、裁いたり、迫害したり、笑ったりすることがあるかもしれません。しかし、その最後は明らかです。

「しかし、聖書に何と書いてありますか。「女奴隷とその子を追い出せ。女奴隷から生まれた子は、断じて自由な身の女から生まれた子と一緒に相続人になってはならないからである」と書いてあります」ガラテヤ4:30

わたしたちは、女奴隷とその子として象徴されている肉で救われようとする行為と、自由の女とその子が象徴する神様の救いの約束は一緒になれない、一緒に神様の祝福を相続することができないということを教えています。わたしたちの努力に対して、欠けてる部分を神様が恵みでプラスして救われるというような考え方は間違っているということです。そして、繰り返しになりますがパウロは律法主義に陥ろうとしていたガラテヤの人たちにもう一度こういいます。

「要するに兄弟たち、わたしたちは、女奴隷の子ではなく、自由な身の女から生まれた子なのです」ガラテヤ4:31

自分たちがどのような存在なのか、わたしたちも忘れないようにしましょう。